

仙台赤十字病院を受診する対象地区在住患者の概況

2026年2月12日

宮城県

仙台赤十字病院

仙台赤十字病院を受診する対象地区在住患者の概況① 分析対象地区の定義

対象地域は仙台赤十字病院の位置する八木山を含む6つの連合町内会とした。また、当該地域に位置する診療所は22か所ある。

1. 対象地区の概要（塗りつぶし：対象地区、●：診療所）



※ 対象地区は以下を指す（八木山連合町内会、八木山南連合町内会、緑ヶ丘地区連合町内会、向山地区連合町内会、西多賀地区連合町内会、太白地域町内会連合会に所在する地区）

- | | | | |
|-------|--------|----------|----------|
| ・ 青山 | ・ 佐保山 | ・ 松が丘 | ・ 八木山緑町 |
| ・ 芦の口 | ・ 太白 | ・ 三神峯 | ・ 八木山弥生町 |
| ・ 大塙町 | ・ 土手内 | ・ 緑ヶ丘 | ・ 八木山東 |
| ・ 大谷地 | ・ 長嶺 | ・ 向山 | ・ 八木山南 |
| ・ 恵和町 | ・ 西多賀 | ・ 茂ヶ崎 | ・ 山田自由ヶ丘 |
| ・ 越路 | ・ 西の平 | ・ 八木山香澄町 | ・ 若葉町 |
| ・ 金剛沢 | ・ 萩ヶ丘 | ・ 八木山本町 | |
| ・ 桜木町 | ・ ひより台 | ・ 八木山松波町 | |

2. 対象地区に位置する医療機関

医療機関一覧

病院

- ・ 仙台赤十字病院

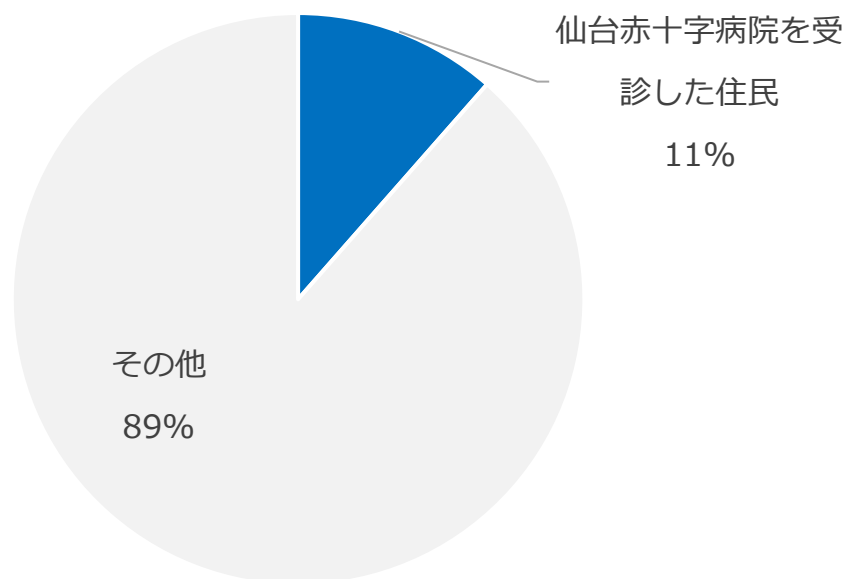
診療所

- ・ 医療法人松田会八木山内科・皮膚科クリニック
- ・ 医療法人松田会八木山整形外科クリニック
- ・ 八木山すずきクリニック【内科、呼吸器、消化器、循環器、アレルギー、糖尿病】
- ・ 興野内科医院
- ・ めざきクリニック【内科、循環器、小児】
- ・ 内科・循環器科ちばクリニック
- ・ 大波医院【内科、消化器、皮膚】
- ・ 西多賀やまだ内科・糖尿病クリニック
- ・ 徳永眼科医院
- ・ くまがいクリニック内科・消化器科
- ・ 西多賀眼科医院
- ・ 西多賀耳鼻咽喉科クリニック
- ・ ハートワン診療所【内科】
- ・ 山田医院【内科、産婦人科、理学療法科】
- ・ かねこクリニック【内科、呼吸器、消化器、循環器、小児、リハビリ】
- ・ すけの医院【呼吸器、循環器、外科、麻酔】
- ・ 今井クリニック
- ・ 東北放送本社医務室
- ・ 特別養護老人ホームまほろばの里向山診察室
- ・ 特別養護老人ホーム サン・つばき医務室
- ・ 特別養護老人ホーム 大年寺山ジェロントピア診療所
- ・ 特別養護老人ホーム 八木山翠風苑診療所

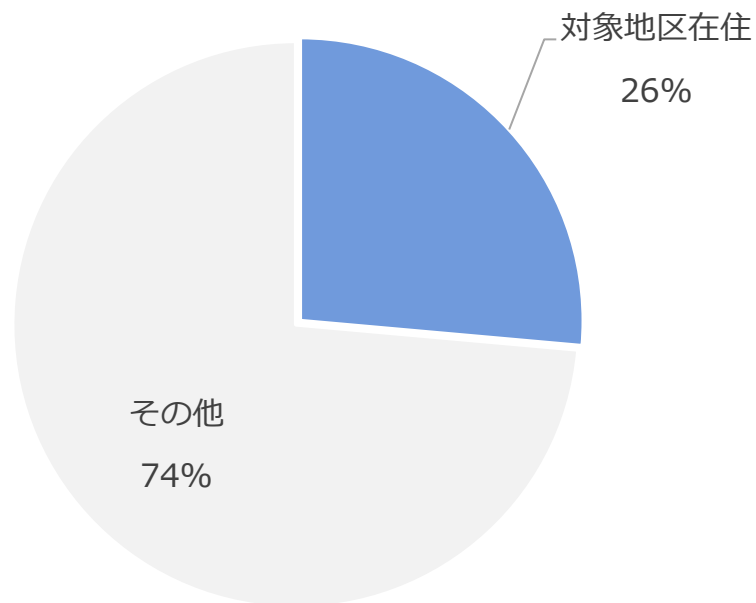
仙台赤十字病院を受診する対象地区在住患者の概況② 外来受診状況

患者所在地を基に2024年の対象地区在住者の来院割合を算出したもの。
対象地区在住者のうち仙台赤十字病院を受診した住民は11%、仙台赤十字病院の年間実患者数のうち対象地区在住の人数は26%を占める。

1. 対象地区在住者のうち仙台赤十字病院を受診する人数



2. 仙台赤十字病院を受診する患者のうち対象地区在住の人数

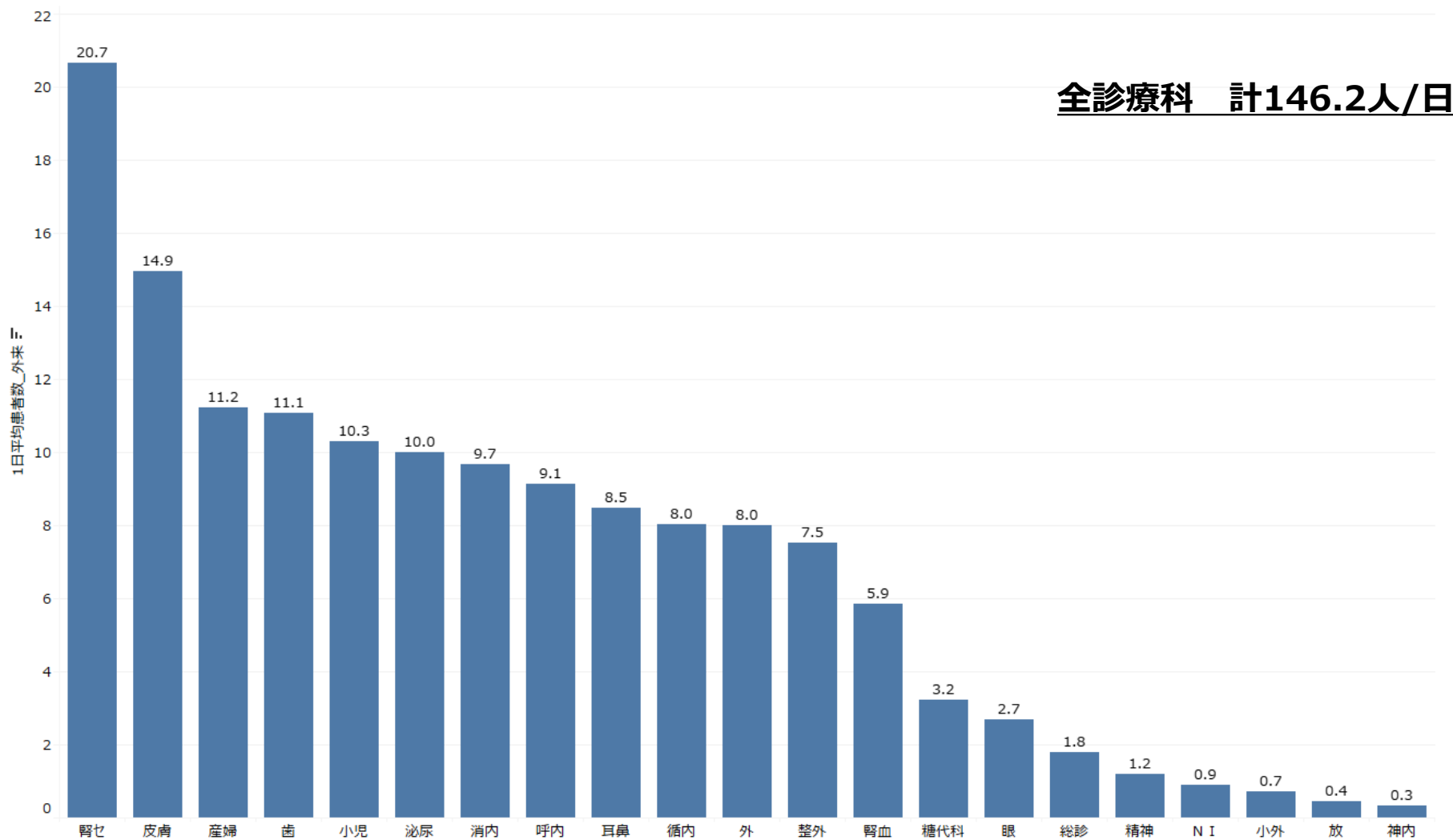


対象地区人口	対象地区在住の年間実患者数
52,955人	6,078人

仙台赤十字病院の年間実患者数	左記のうち対象地区在住者の年間実患者数
23,011人	6,078人

仙台赤十字病院を受診する対象地区在住患者の概況③ 診療科別の外来受診状況

2024年外来延患者数を用いて1日当たりの診療科別受診動向を確認したもの。
1日あたりの診療科別患者数をみると腎臓センター・皮膚科以外では10名/日程度の診療科が多い。



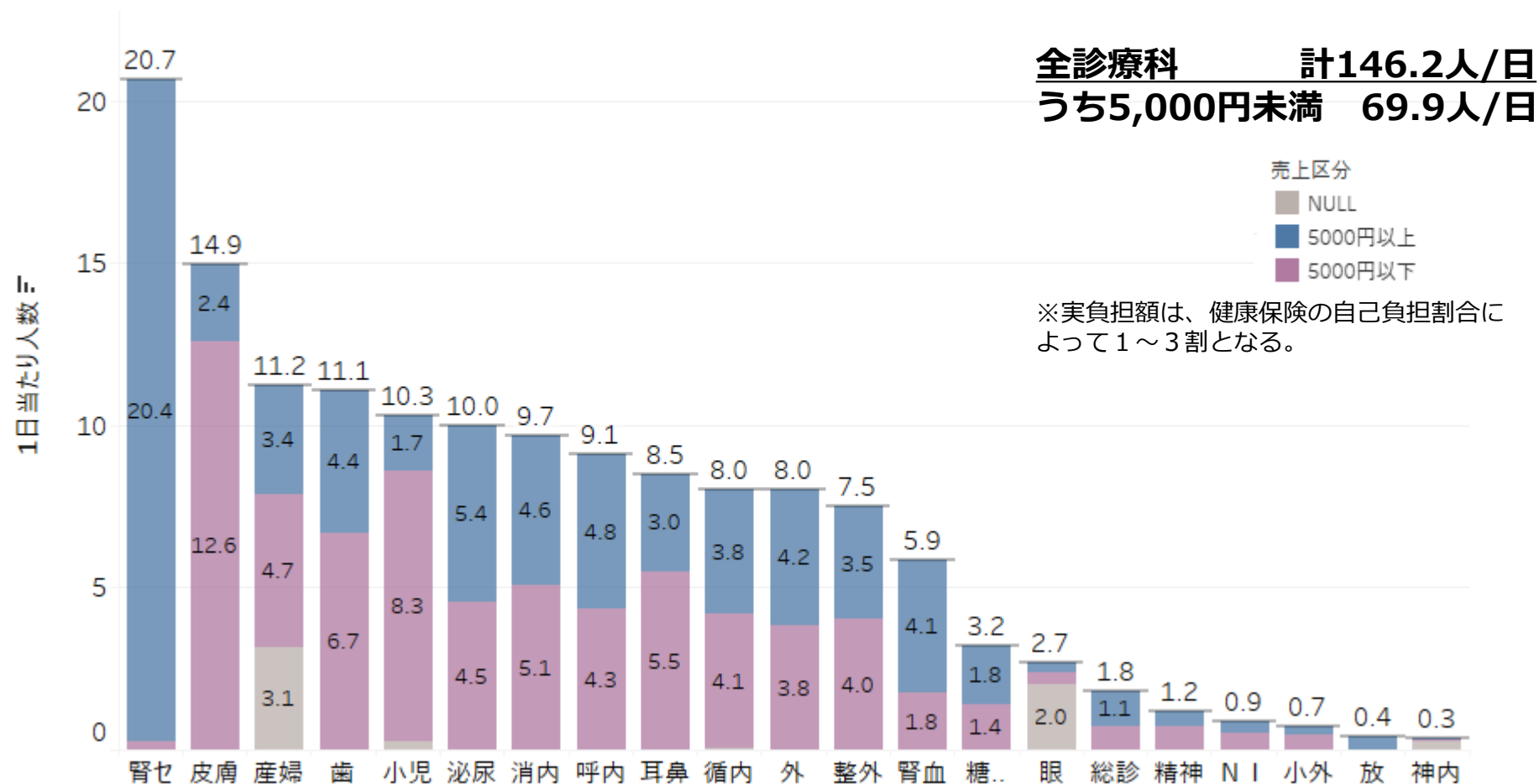
※ 仙台赤十字病院提供データ（2024年）

※ 1日あたり患者数は診療日数を244日と仮定して延べ患者数を除して算出

仙台赤十字病院を受診する対象地区在住患者の概況③ 診療科別の外来受診状況

診療科別売上別の1日当たり患者数を以下に示したもの。

本分析では受診一回当たりの受診額が5,000円未満の患者を「高額な処置・手術・薬剤・検査等が発生しておらず、診療所でも対応可能な患者」と定義した。全診療科で計146.2人/日のところ、5,000円未満の患者は69.9人/日となっている。



※ 仙台赤十字病院提供データ（2024年）
 ※ 1日あたり患者数は診療日数を244日と仮定して延べ患者数を除して算出
 ※ 保険診療のみ対象（妊婦健診や予防接種、文書料などは対象外）

2024年外来延患者数を用いて1日当たりの救急搬送、1次救急、化学療法、透析、紹介患者の受療動向を可視化したもの。

多くが特殊要因（救急搬送、1次救急、化学療法、透析、紹介患者）ではなく、再診の患者であることがわかる。

特殊要因でない再診の患者において、5,000円未満の患者は66.8人/日であり、診療所でも対応できる患者が多いと捉えている。

なお、化学療法および救急搬送は医療圏全体で調整すべき内容のため対象地区のみで医療提供体制を考えるものではないが、透析や紹介患者（特に放射線科への画像診断連携）については、対応策を検討することが望ましい。



※実負担額は、健康保険の自己負担割合によって1～3割となる。

※ 仙台赤十字病院提供データ（2024年）
 ※ 1日あたり患者数は診療日数を244日と改定して延べ患者数を除して算出
 ※ 保険診療のみ対象（妊婦健診や予防接種、文書料などは対象外）

2024年外来延患者数を用いて複数診療科受診動向を確認したもの。
 同日複数診療科受診をしている患者数は11.2人/日であり、平均2.1診療科を受診していることが分かった。
 なお、複数診療科の受診が最も多い診療科は皮膚科、次いで耳鼻咽喉科であった。

1. 分析対象地区における年間同日複数診療科受診の状況

年間延外来患者数	35,663人
複数診療科を受診した延患者数	2,734人
1日当たり複数診療科を受診している患者数	11.2人
1回当たり複数診療科受診数	2.1診療科

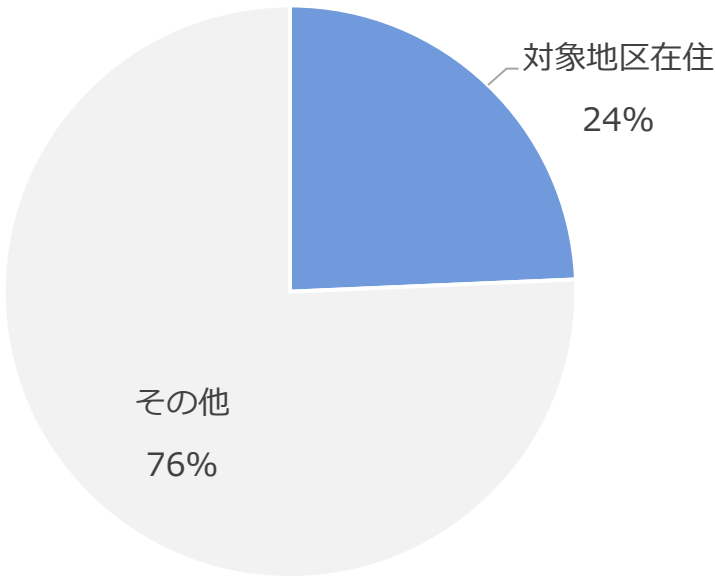
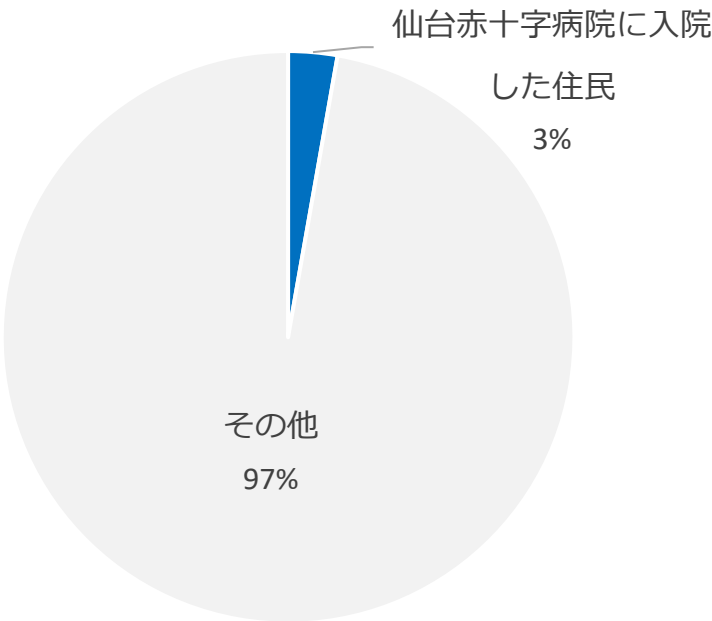
2. 分析対象地区における同日複数診療科受診（併科）の状況

診療科	受診回数
皮膚	663
呼内	624
耳鼻	576
循内	548
消内	511
泌尿	494
外	371
糖代科	338
歯	336
腎血	292
産婦	240
整外	178
眼	160
小児	116
腎セ	83
総診	66
精神	51
小外	26
神内	25
N I	21
放	2
総計	5,721

※ 仙台赤十字病院提供データ（2024年）
 ※ 1日あたり患者数は診療日数を244日と改定して延べ患者数を除して算出

患者所在地をもとに2024年の対象地区在住者の入院割合を算出したもの。
 対象地区在住者のうち仙台赤十字病院に入院した住民は3%、仙台赤十字病院の年間実患者数のうち対象地区在住の人数は24%を占める。

1. 対象地区在住者のうち仙台赤十字病院にて入院した人数
 2. 仙台赤十字病院の入院患者のうち対象地区在住の人数



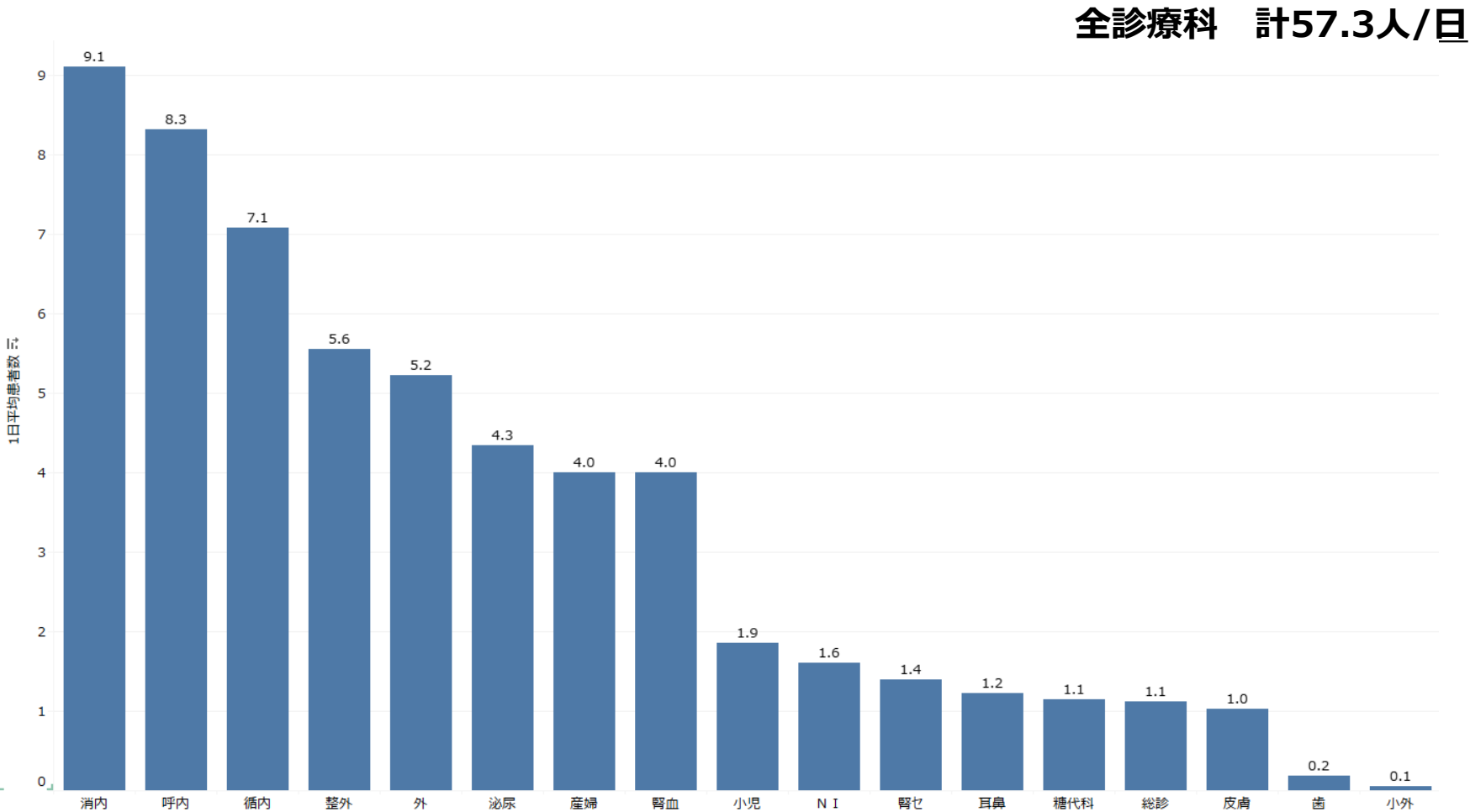
対象地区人口	対象地区在住の年間実患者数
52,955人	1,451人

仙台赤十字病院の年間実患者数	左記のうち対象地区在住者の年間実患者数
5,967人	1,451人

※ 対象地区人口：仙台市HP 町名別年齢（各歳）別住民基本台帳人口 令和7年4月1日現在 より
 ※ 実患者数：仙台赤十字病院提供データ（2024年1月～12月）より計算

2024年入院延患者数を用いて1日当たりの診療科別受診動向を確認したもの。
1日あたりの診療科別患者数をみるとすべての診療科で10人/日を下回る。

1. 分析対象地区における診療科別1日あたり入院患者数のイメージ（延患者数÷365日）



※ 仙台赤十字病院提供データ（2024年）
※ 1日あたり患者数は診療日数を365日として延患者数を除して算出

仙台赤十字病院を受診する対象地区在住患者の概況まとめ

外来	概況		対象地区のおよそ1割の住民が過去1年で仙台赤十字病院を利用しているという地域に根差した病院であった。他方で、機能別にみると救急や紹介といった特殊要因でない受診者が多く、一部診療所的な役割も大きく担ってきたものと考えられる。
	機能別	救急搬送、救急	救急搬送は1.2人/日。ウォークインによる時間外受診は1.5人/日と実際に通院している住民は少ない。対象地区のみで医療提供体制を考えるものではなく、仙台市の急患センター活用等の利用促進も考えらえる。
		紹介（画像連携）	1人/日未満。対象地区のみで医療提供体制を考えるものではなく、実際に通院している住民は少ない。
		紹介（その他）	6.7人/日と対象地区との診療所との診療連携により、毎日一定数の住民が利用している。対象地区のみで医療提供体制を考えるものではなく、対象地区の診療所については改めて連携先について調整する必要がある。
		透析	20.6人/日と毎日一定数の住民が利用している。透析は週3回受診をする必要がある医療機能であるため、アクセス面も考慮に入れつつ仙台赤十字病院移転後の対策について検討する必要がある。
		化学療法	1人/日未満。対象地区のみで医療提供体制を考えるものではなく、実際に通院している住民は少ない。
		その他の初診、再診	上記以外の通院が最も多く、多くの割合でクリニックで対応可能な外来患者が通院している可能性が高い。
	診療科別	受診の多い診療科	多くの診療科については10人/日程度となり、対象地区に向けて新たな医療機関を創設するに至る需要が乏しいことが確認された。既存の対象地区内の22診療所などで受け入れ可能かどうかの検証も行う必要がある。
		複数診療科の受診	対象地区から受診している患者のうち、およそ1割は同日に複数診療科を受診している傾向が確認された。特に皮膚科や耳鼻咽喉科を受診する傾向があり、住民の利便性は一定程度低下する可能性が挙げられる。
入院	概況		対象地区のみで医療提供体制を考えるものではなく、近隣の病院など、代替可能な医療機関は複数あると考える。